Art@東静岡（グランシップ）とは

芸術はどこか遠くにあるのではなく、地域に生きる人々の心の中にも潜んでいます。そしてアーティストはコロナ禍にあってなお、自らが抱えた問題をあたため、見つめなおし、事物と対話し、大切なことをカタチにしようとしています。『Art@東静岡』は、静岡を拠点に精力的な活動を続けるアーティストへの新たな発表の場の提供に加え、グランシップにご来館のみなさまに日常的にアート作品に触れていただくことを目的とした展覧会です。館内のさまざまな場所に置かれた作品による、空間の変容をお楽しみいただければ幸いです。

千葉 広一 Chiba Kouichi

1967 埼玉県浦和市(現さいたま市)生まれ
1992 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
主な作家活動
2012 個展「いつか・どこか・きっと」ギャラリーsensenci (静岡)
2012「MAX A5 2012」KONTORS Galleri (デンマーク)
2013「写真新世紀2013」佳作 東京都写真美術館(東京)
2014~2016 静岡新聞日曜版に詩人平田俊子のエッセイ挿画として作品連載(全88回)
2016「めぐるりアート静岡」旧マッケンジー住宅、東静岡アート&スポーツ/ヒロバ (静岡)
2017~2020「めぐるりアート静岡」東静岡アート&スポーツ/ヒロバ (静岡)

作家紹介

思春期、孤独、不安、家族、別れ、旅立ち、、、。千葉広一の作品は、誰もが秘める心のゆらぎを映しだす。
「いまは、明日を考えると暗鬱な気持ちになることの多い時代です。だからこそ、いま生きている時間の大切さ、誰もが本当は持っているやさしさを思い出してほしい」。2年前、千葉が「めぐるりアート静岡」に寄せたこの言葉は、コロナ禍の今、そのまま痛切なメッセージとして響く。
今回、グランシップでは、写真作品と空間を仮設するインスタレーションによって、失われることで見えてくる「存在」と、自分と他者を思う「不在」をめぐり作品が展開される。
（Art@東静岡（グランシップ） キュレーター　白井嘉尚）

作家の言葉

突然失われるものがある。
いつの間にか失われているものがある。

当たり前の日常がこんなにも儚く尊いものだったと気付かされる、今。
明日が今日の続きではなくなる、今。

だから立ち止まって自問する。
僕らは大切なものを大切にできているだろうか？
愛すべき存在を愛することができているだろうか？

◀ アンケートはこちらから

〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
https://www.granship.or.jp/
主催 公益財団法人 静岡県文化財団・静岡県

幸いの在り処

千葉 広一

Chiba Kouichi

2021/9/22 Wed - 2022/3/7 Mon

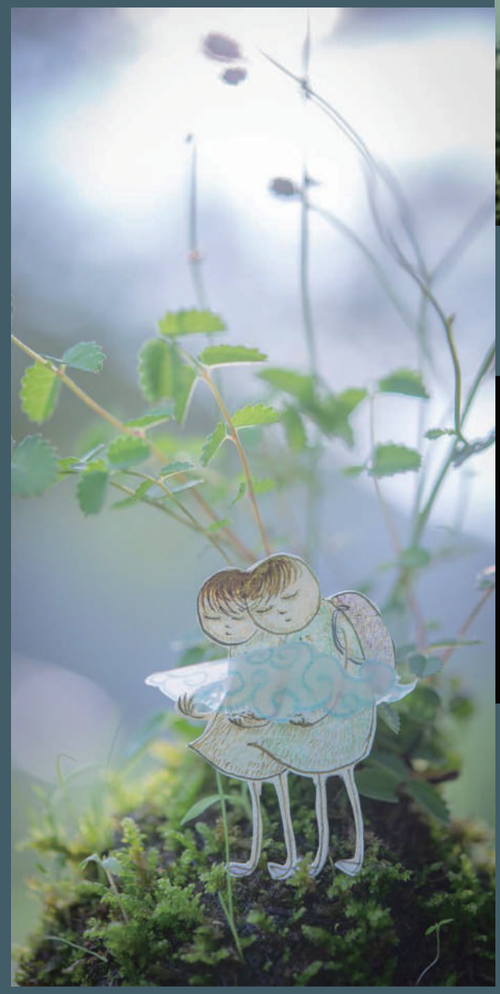
▶ 観覧無料

グランシップ館内で開催中
※休館日はグランシップHPをご確認下さい

Art@東静岡（グランシップ） 2021年度後期展示

ショーウィンドウ　《不在の家》《不在の教室》

3Ｆエスカレーター付近　《在り処》

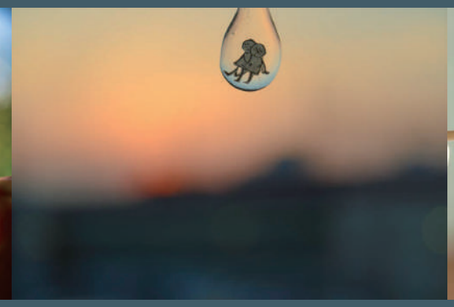


2Ｆエスカレーター踊り場　《昨日、雲に触れた》

エントランスホール　《日々》

そろそろ帰りますね
暖かくして
風邪など引かないように

また　すぐ来ます



帰ろう

季節は巡るのですか？
行き過ぎるのですか？

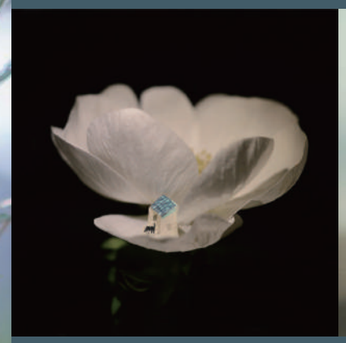
ブランコに揺られて感じるのは
風ですか？

東京

風が吹いていた

距離

桜の樹の上

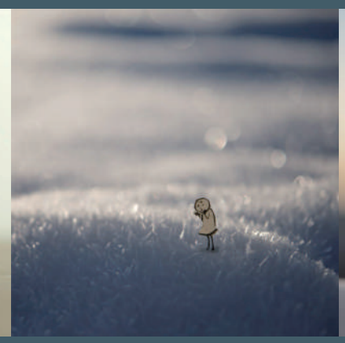


僕の建てた青い屋根の小屋には
野良犬の一匹でも住んでくれたら
それでいい
僕の名を思い出してくれる
幾人かの人達もいなくたった頃
その小屋も朽ち果てて
そこに小さな花でも咲いてくれたら
それでいい

穏やかな日曜日
少しだけ開いた扉から

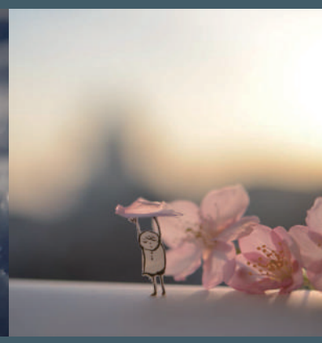
春の陽射しと
春の風

いつかの思い出が
綿ぼこりのように
ころころと
転がっていきました



喉がかれるまで、
誰かを呼び続けたことがあった。
涙が涸れるまで、
泣き続けたことがあった。

叶わないことを知り、
祈ることを知った。
あなたを知って、
祈ることを　した。



もうじき桜の季節が来る

あと何回
もう何回

いいえ
ずっと

きっと
ずうっと